

った。また、サイトの情報量については「ちょうど良い」が84.2%で最も多く、「多い」が11.2%、「少ない」が4.6%という結果になった。

当サイトではコンテンツの更新時等に登録ユーザーに対してお知らせメールを配信している。このお知らせメールを読んでいるかどうかについての質問では

「ときどき読む」が56.8%で最も多く、「必ず読む」が39.9%、「読まない」が3.3%であった。「読まない」理由としては「メールが多数来るので気がつかない」「必要ない」という意見が見られた。ほとんどの人が読んでいるという結果となった一方、メールでお知らせした新規コンテンツ等を見るかという質問では「内容による」が79.3%で最も多く、「見る」が20.0%、「見ない」が0.7%という結果になった。

また今後力を入れてほしいコンテンツは「臨床研究の基本的な内容」、「臨床研究の進んだ内容」、「統計学」等であった(図14)。

当サイトのコンテンツへの満足度は、初級編を利用したユーザーでは「とても満足」24.4%と「満足」59.4%あわせて83.3%と比較的よいが、初級編以外のコンテンツを利用したことのないユーザーが各コンテンツで半数近い結果となった(図15)。初級以外のコンテンツのビデオ教材等はあまり活用されておらず、その理由としては時間が長いという回答が多かった。

またサイトの総合的な有用性を問う質問では「有用」が58.1%で最も多く、次いで「とても有用」が38.6%であり、合算すると有用と感じている回答者が96.7%と

いう結果となった。「有用ではない」「とても有用ではない」という回答はなかった(図16)。

D. 考察

当サイトは平成19年より公開を開始し、平成23年3月31日現在でユーザー登録数は11665名、初級編修了者数は5517名である。これまではユーザーに対して初級編の各章のアンケート及び総合テスト受験時のアンケートによりユーザーの意見等を確認していたが、今回は利用者の特性やニーズの把握のためにWEBアンケートを実施した。

アンケートの結果、当サイトの利用者の満足度は比較的高く、サイトに対する評価もよいものであった。

その一方で、求める情報が探しにくいという意見や、初級編以外のコンテンツの利用度の低さ、また臨床研究の初歩的な講義等のコンテンツは掲載しているのに対して、「臨床研究の基本的な内容」も掲載を求める意見が多い等、掲載内容の整理やナビゲーションに関しての問題点も明らかとなった。

また掲載コンテンツであるビデオについてもあまり利用されていないということや、メール配信の工夫が必要であることがわかり、対応が求められる。

今後のユーザー拡大に際してはさらに力を入れてほしいコンテンツとして希望のあった「臨床研究」「統計学」について対応することが必要であると思われる。

E. 結論

本サイトの内容に関してユーザー満足

度は相対的に高いと言えるが、サイトの使い勝手についての満足度はあまりよい評価とは言えない。サイトの利用者が求める教育サイトに必要なことは、ユーザーが求める内容を短時間で効率的に学ぶことができるコンテンツであるといえる。

なお、研究班では本アンケートの結果を受け、①ビデオコンテンツをPod cast化して配信②メール配信の際にはメールタイトルに配信する講義コンテンツ名等を掲載するという改善をおこなった。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 学会発表

1) 多田三千代、山上須賀、山下紀子、小林典子、吉村健一、安藤正志、柴田大朗、福田治彦、藤原康弘、山本精一郎. 臨床研究ポータルサイトICRwebによるユーザーニーズ調査：第48回日本癌治療学会学術集会 2010年10月 京都

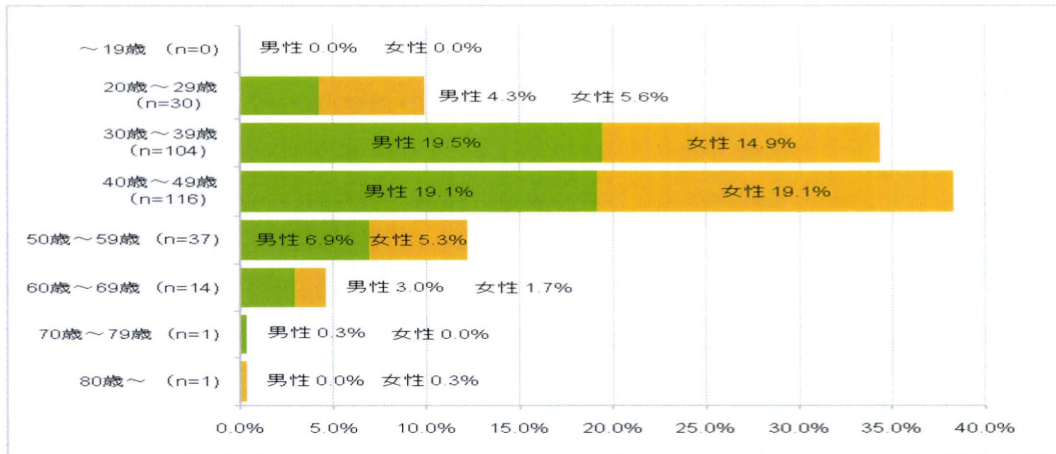


図1 年齢別登録ユーザー

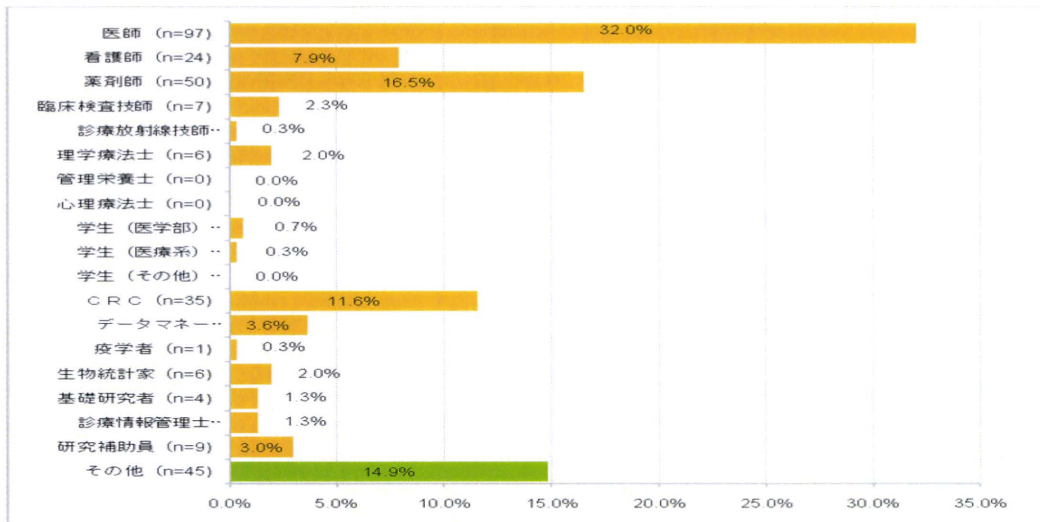


図2 職種別登録ユーザー

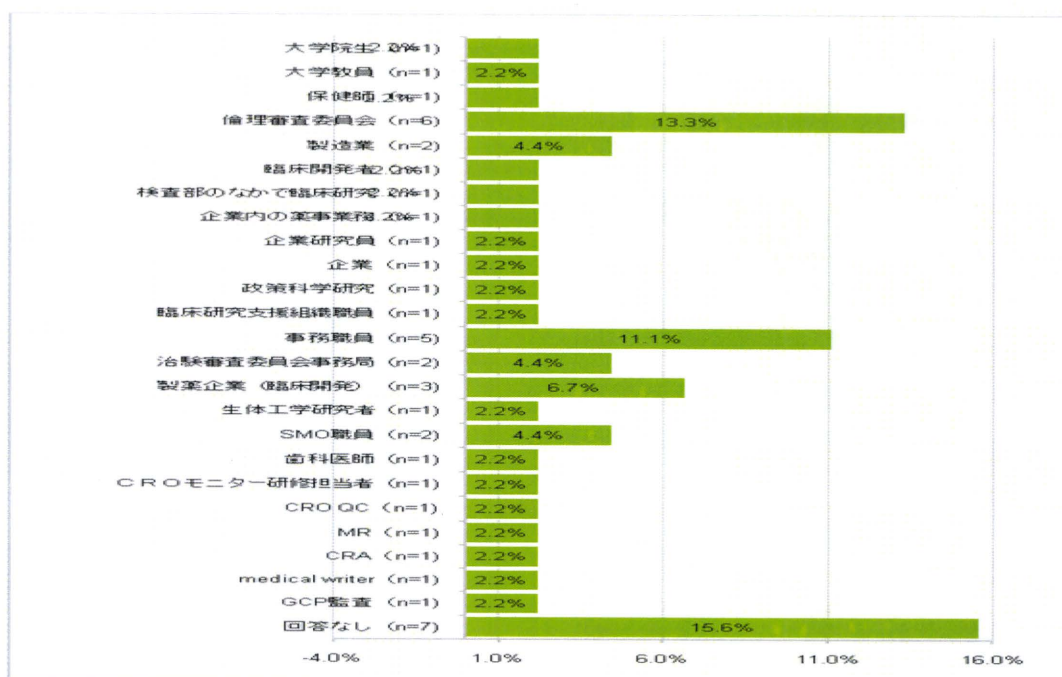


図3 「その他」の登録ユーザーの内訳



図4 当サイトが「研究者、倫理審査委員、臨床研究専門職、市民に対し、臨床研究の教育と啓発を行うこと」を目的に運営されていることを知っていたかとその職種別割合

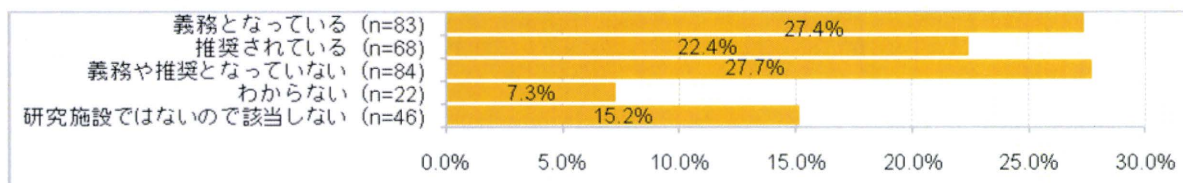


図5 施設で修了証取得が義務あるいは推奨されているか

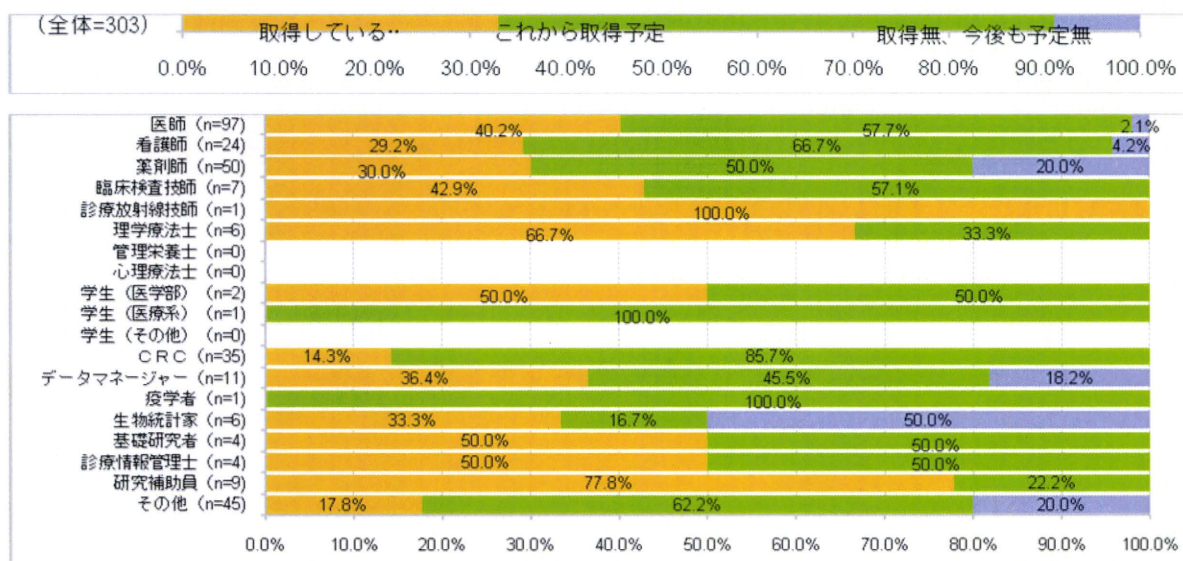


図6 初級編修了証（以下修了証）を取得をしているか及びその職種別割合

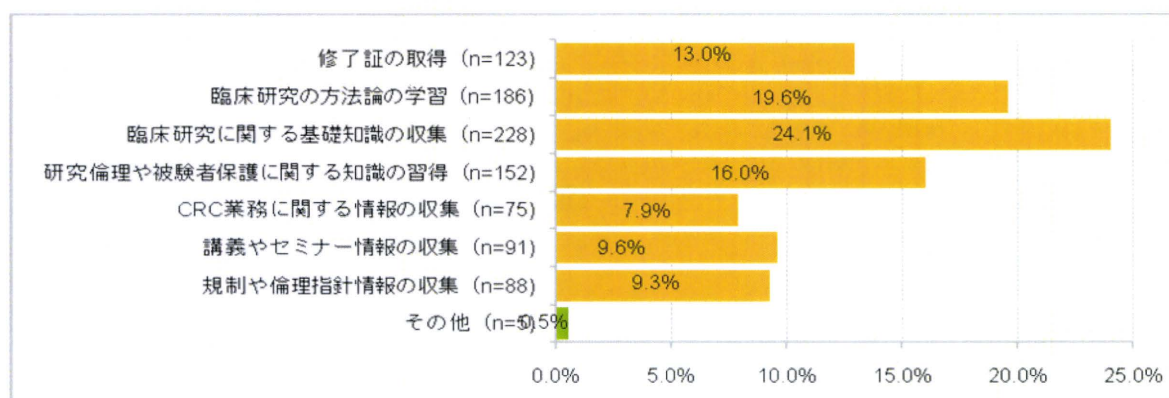


図7 ユーザーのサイト利用目的

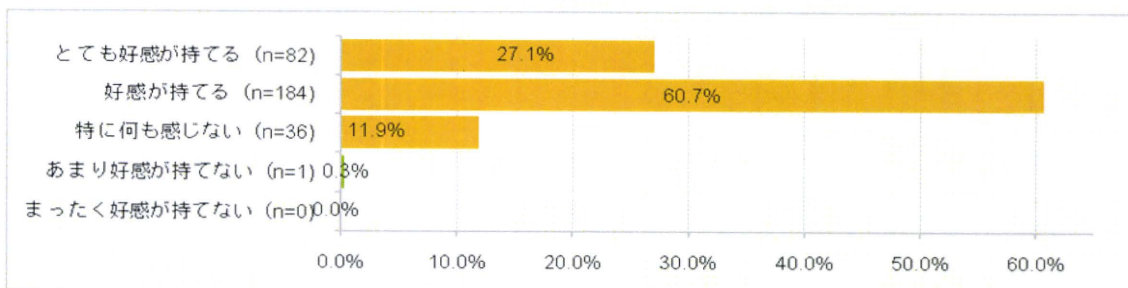


図8 サイトのデザインに対する印象

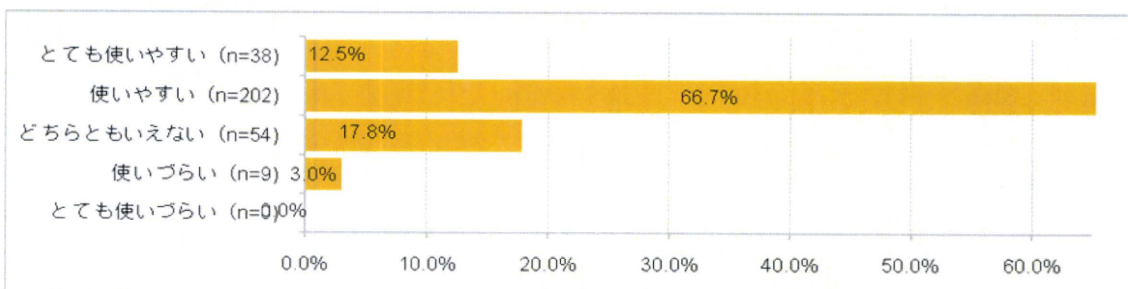


図9 サイトの使いやすさについて

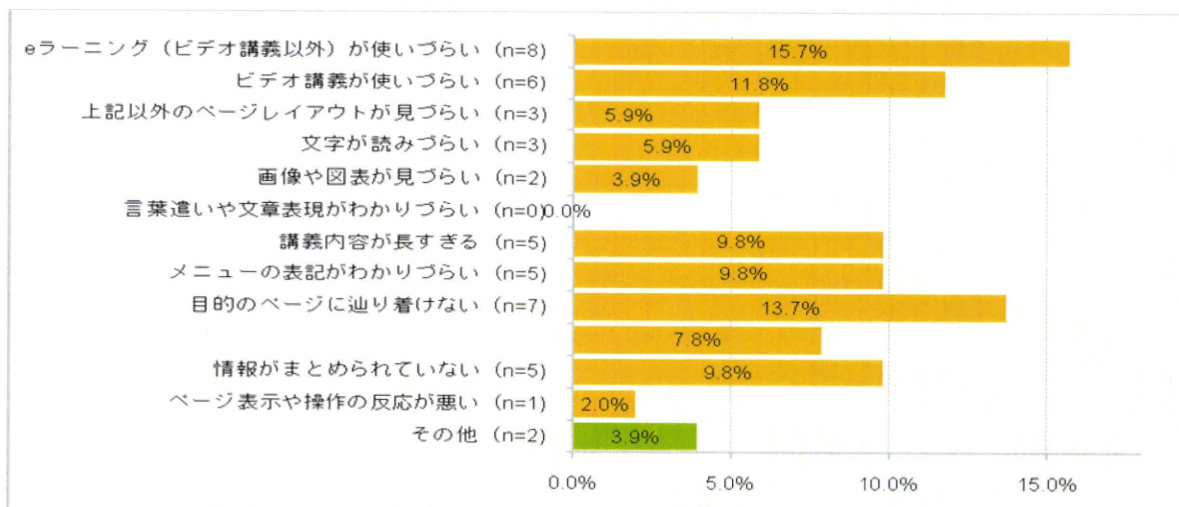


図10 サイトの使いづらいつらについて

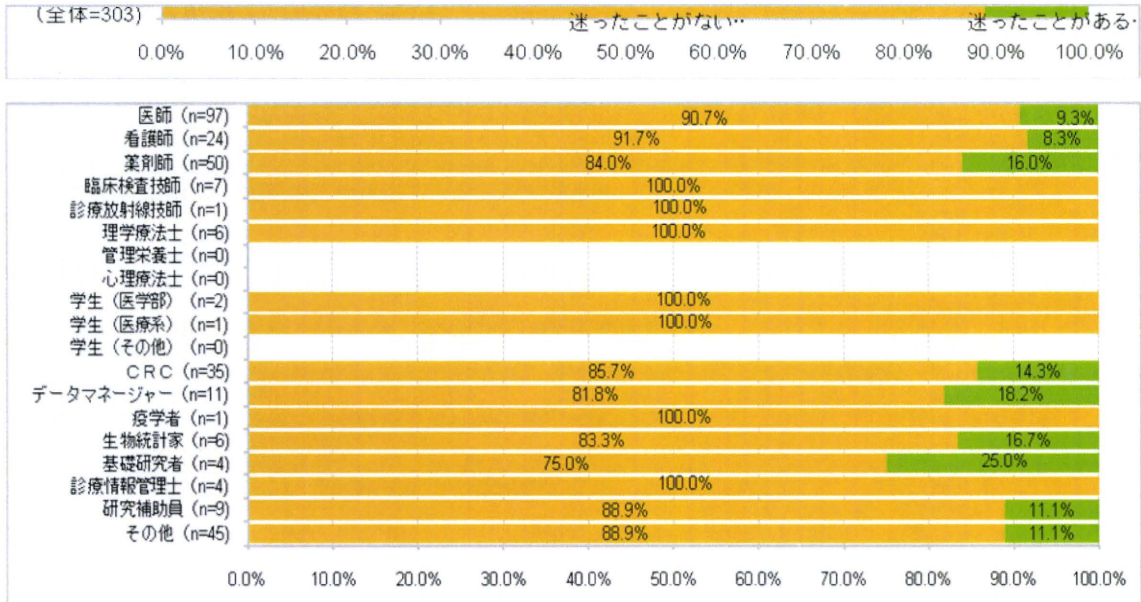


図 11 サイトの利用で迷ったことがあるかどうかとその職種別割合

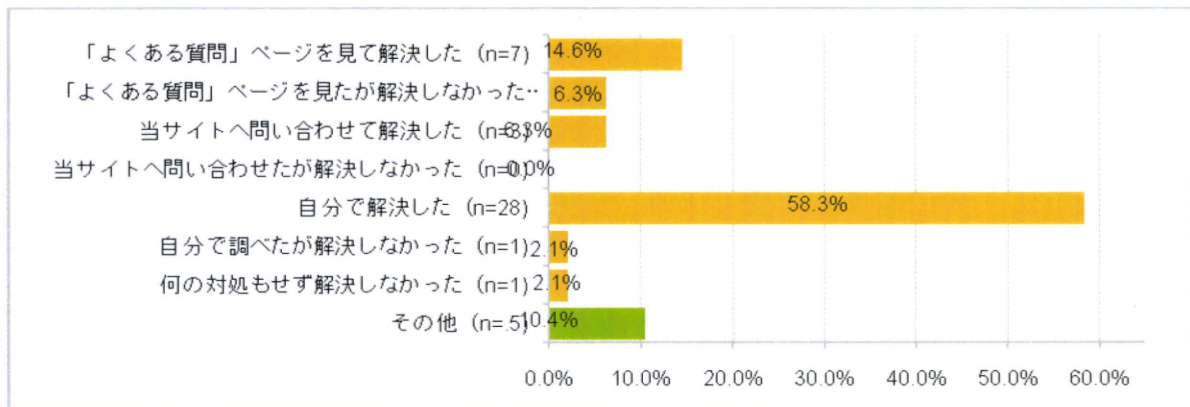


図 12 操作に迷った際の解決方法

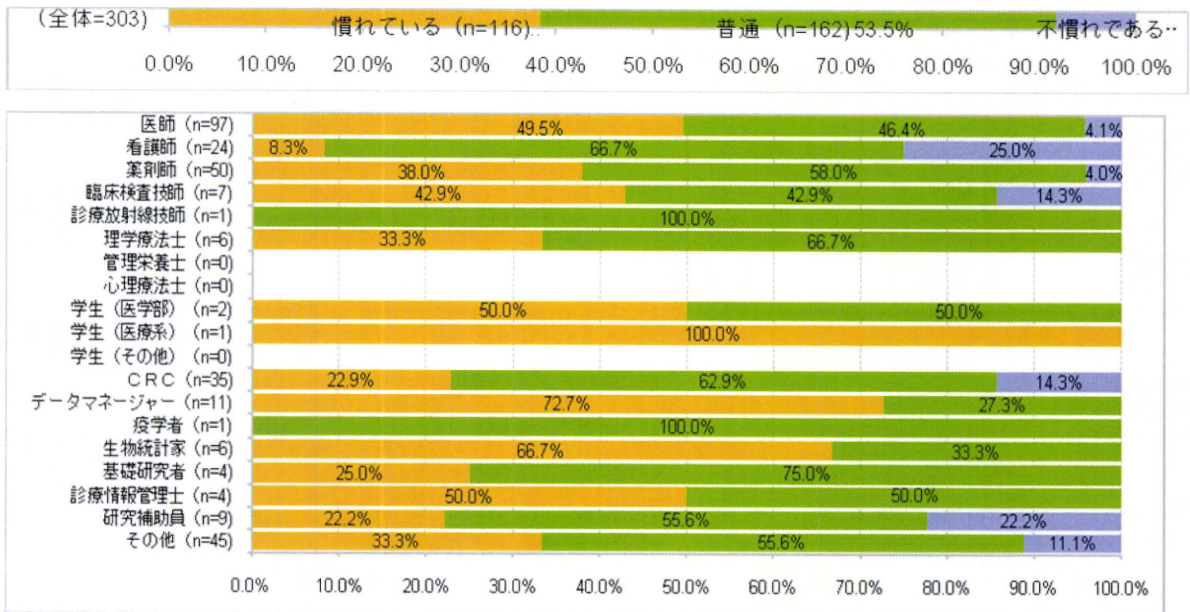


図 13 PC 操作に慣れているかどうかとその職種別割合

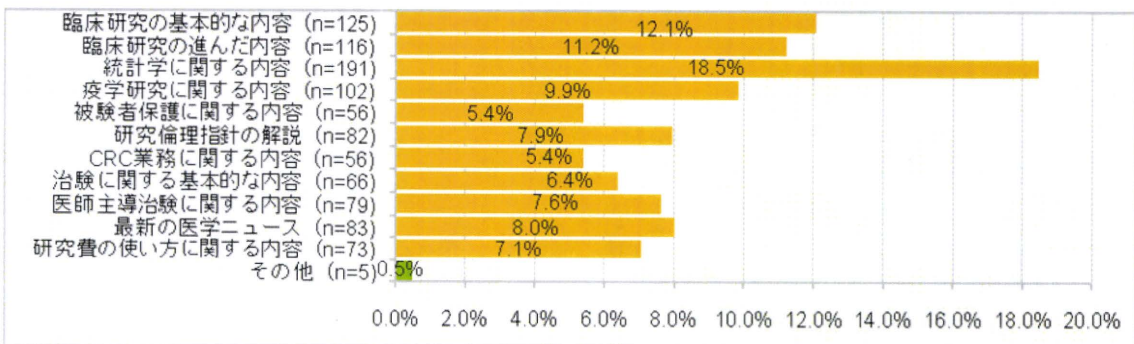


図 14 今後希望する掲載内容

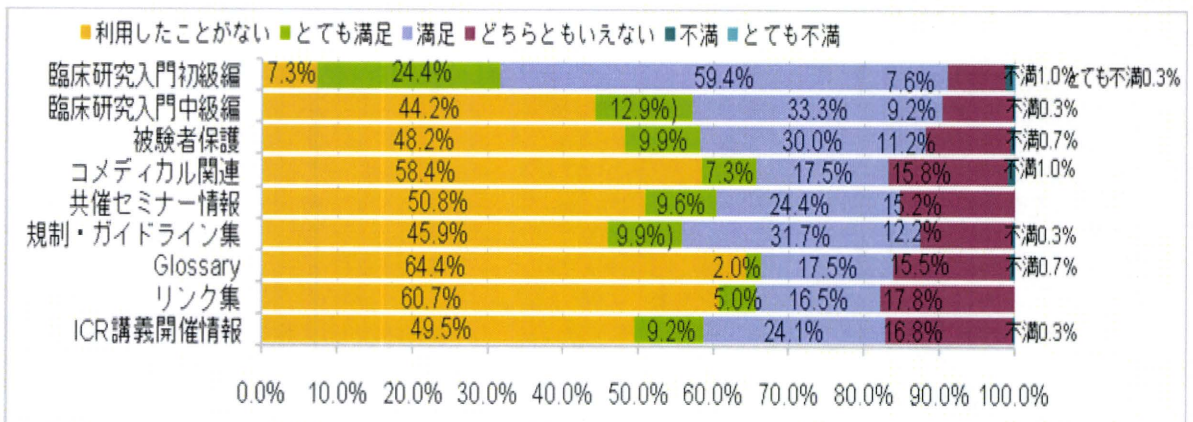


図 15 サイトコンテンツの満足度

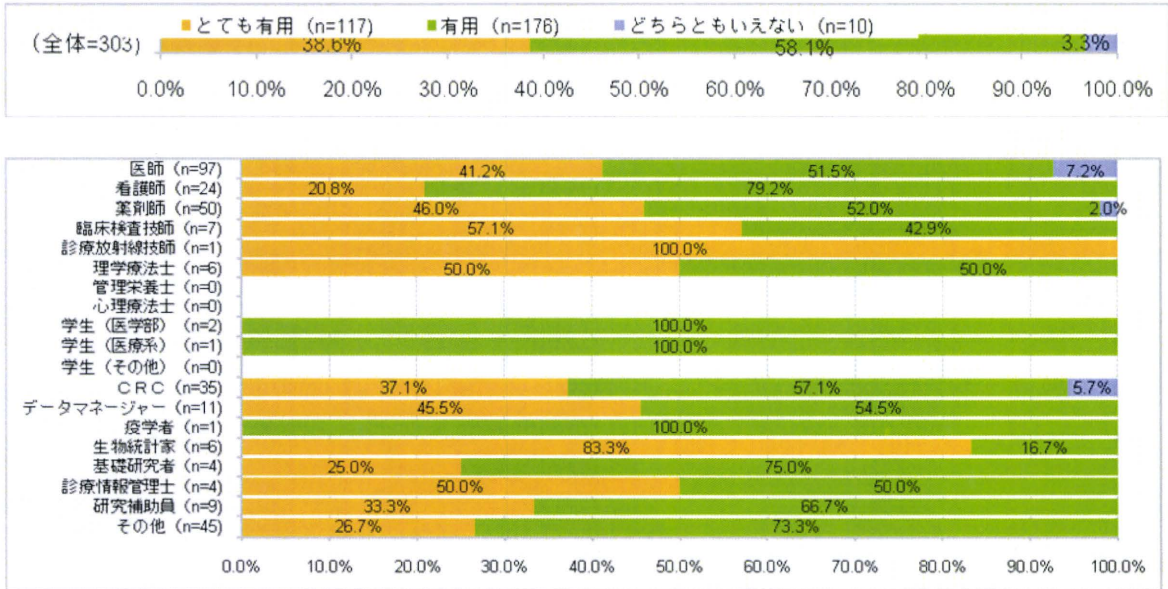


図 16 サイトの総合的な有用性と職種別の回答

分担研究報告書

がん臨床試験における CRC の教育プログラムの開発

研究者氏名・所属機関名

小林 典子 国立がん研究センター中央病院 臨床試験支援室 看護師
多田三千代 国立がん研究センター中央病院
山下 紀子 国立がん研究センター中央病院
山上 須賀 国立がん研究センター中央病院
藤原 康弘 国立がん研究センター中央病院
中村 直子 国立がん研究センター中央病院
山本精一郎 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部

研究要旨：平成 21 年度より臨床研究コーディネーター（CRC）の教育プログラムの開発を開始した。臨床試験の中でも難易度が高いといわれるがん領域に関する学習の場の提供を目的として、がん臨床試験のセミナーの開催と e-learning の作成を中心に活動をしてきた。臨床試験を実施する上で、専門知識を習得することが必要であり、これまでに臨床試験の概論から、がん臨床試験の各論へと学習の場を提供した。しかし、CRC のみならず臨床試験に関わる全ての人が、臨床試験における知識の習得が必要であり、また、臨床試験を安全かつ正確に実施する上で、医療の現場において「チーム医療」の実践が必要であると考え。そのため、今年度の取り組みとして、教育プログラムの対象を CRC に限定せず、CRC を中心とした医療現場全体の教育プログラムの開発を行った。

A 研究目的

昨年度から引き続き CRC の教育プログラムの開発に取り組むが、臨床試験に関わる全ての人が臨床試験の知識を習得し、各職種の専門性を生かし「チーム医療」の実践に取り組むきっかけを作るため、CRC の教育プログラムを活用し、他職種でも学べる環境を作ることを目的とする。

B 研究方法

CRC やその他の参加者より実践的なプログラムに対するニーズを調べ、それに

基づいてセミナー形式のプログラムを作成する。実際にセミナーを行うことによって、受講者による評価を行い、その後、e-learning 化することによって汎用的なプログラムの開発を行う。

1) がん臨床試験に対する意識調査

がん臨床試験のセミナーを実施することを告示し、応募者の中からの会場の収容人数に合わせて参加者を絞り、参加者を対象にがん臨床試験の知識や学びたいことについてのアンケート調査を実施した（別紙 1）。

2) がん臨床試験セミナーの開催

がん臨床試験は日々刻々と進歩している。そのため、医薬品開発の動向あわせた対応ができることがCRCにも求められている現状をふまえ、最新情報とともに、がんに関する知識や臨床試験に対する知識を習得できるセミナーを開催した。

アンケート調査の内容を参考に、参加者のニーズを講義内容に反映させた。さらに、セミナー終了後のアンケート調査により、内容の評価を行った(別紙2)

3) e-learningの作成

セミナー内容を収録しCRC向けのe-learningプログラムを作成した。

C 研究結果

1) がん臨床試験に対する意識調査

がん臨床試験セミナーをより効果的に実施するため、参加予定者128名の背景を調査した。調査結果は以下のとおりである。

①参加者人数

128名(CRC 98名、CRC以外 30名)

②所属

CRCの所属は医療機関所属81名、SMO所属17名(CRCの経験年数は1年未満6名、1年以上92名)。CRC以外の所属は医療機関所属12名、製薬企業6名、CRO6名、その他6名。

③抗がん剤の臨床試験の経験

抗がん剤の経験のあるCRCは77名、CRC以外の方は19名、合計96名。

④参加のきっかけ

講義内容に興味を持ったCRCは56名、CRC以外の方は14名、合計70名。

がん臨床試験への興味のCRCは31名、CRC

以外の方は10名、合計41名。

多くの参加者が本セミナー開催のニーズにマッチしていた。

⑤各講義に対するニーズ(別紙3)

「がん臨床試験の今を知る～CRCに期待すること～」に対する要望はがん臨床試験の現状に関する具体的な質問やCRCに期待することであった。

「プロトコールを深く読んでみる～統計解析を中心に考える～」に対する要望は統計の基礎を講義してほしいとの要望が大半であった。

「安全性の評価の最新～CTCAE v4.0～」に対する要望はCTCEAのバージョンアップに関する変更点、具体的な評価方法であった。

「有効性の評価の最新～画像診断とRECIST v1.1～」に対する要望はRACISTのバージョンアップに対する変更点、画像診断やRECIST全般なことであった。

「チーム医療を考える」に対する要望はチーム医療のありかたについて、CRCに求めること、CRCのありかたについてであった。

「CRCからみるがん臨床試験の実際」に対する要望は現場の声、実際の現場について、がん臨床試験におけるCRCへの期待であった。

2) がん臨床試験の開催

2011年3月6日(日)9時30分から16時40分に都内の会場にてセミナーを開催した(別紙4)。

テーマを「CRCのためのがん臨床試験セミナー～CRCの心得!今、私達に必要なこと～」として、「がん臨床試験の今を知る～CRCに期待すること」「プロトコールを

深く読んでみる～統計解析を中心に考える～」「安全性の評価の最新～CTCAE v4.0～」「有効性の評価の最新～画像診断とRECIST v1.1～」「チーム医療を考える」「CRC からみるがん臨床試験の実際」について6名が講義を行った。

セミナー実施後にアンケート調査を実施し、セミナーの評価を実施した。アンケートの調査結果は以下のとおりである。

①参加総数 115名

②講義内容の理解度

理解度を5段階評価とし理解度が高いのは5とした。4～5を理解できたととらえると、理解できたと答えたものは以下の通りであった。

1. がん臨床試験の今を知る 101名 (87%)
2. プロトコルを深く読んでみる 75名 (65%)
3. 安全性の評価の最新 92名 (80%)
4. 有効性の評価の最新 85名 (73%)
5. チーム医療を考える 94名 (82%)
6. CRC からみるがん臨床試験の実際 90名 (78%)

③がん臨床試験のCRC研修プログラムとしての適切度

5段階評価とし適切度が高いのは5とした。4～5を適切であるととらえるところ109名(約95%)からの回答を得られた。

④教育ツールとしての利用できるかどうか

5段階評価とし利用できるとの評価が高いのは5とした。4～5を適切であるととらえると、110名(約96%)から適切であったという回答を得た。

3) e-learningプログラムの作成

開催したセミナーをe-learningプログラムとした。来年度の早い時期にICRwebより配信予定である。

D 考察

セミナー開催にあたり参加募集数を80名としたが、178名の応募があり、昨年度同様、本セミナーのニーズが高いことがわかった。

参加者の所属や経験、参加のきっかけのほか、各講義に対する要望を各講師に詳細に伝えることにより、講義内容が参加者の問題解決につながる内容となった。

その結果、がん臨床試験のCRC研修プログラムとして適切であるとの回答が95%であり、また、教育ツールとして利用できるとの回答が96%と高い評価を得ることができた。また、セミナーに参加することでe-learningを知るきっかけとなっていることも事前アンケートの結果でわかった。そのため、セミナー開催は有意義であったと考える。e-learningはセミナーに参加できない人でも学習することができるため、学習ツールとして有用であると考え一方で、セミナー参加者も、セミナー参加後に繰り返し復習することができるため復習の場としても有用であると考え。

臨床試験を安全、かつ、円滑に進めるためには様々な職種との連携が不可欠である。そのため、今回、講義内容にチーム医療も取り込み対象とする参加者も広げることとした。その結果、参加者のうち、病棟看護師からは「医師の記事を読む時に臨床試験のことをさらに意識を持

ってかかわりができるように本セミナーを活かしたいです」、データマネージャーからは「CRC 業務の煩雑さ（コミュニケーション、抗がん剤の投与スケジュールなど）を知りました。私も今まで以上に勉強し、臨床試験にわずかながらにでも貢献できたらと思います。」など他職種が臨床試験や臨床の現場を知ることの大切さも確認できた。

今後も引き続き、現場で活かせる学習の場の提供を検討し、がん臨床試験の発展に貢献していく。

E 結論

本研究が広く活用できるよう継続的に活動し、公開していくことで質の高い CRC 教育の普及を目指すと同時に、研修を通じて臨床試験を取り巻く現状を把握し、問題解決に努め、臨床試験の基盤整備に繋がるよう努めたい。

F 研究発表

1. 学会発表

1) 小林典子 シニア CRC の教育—がん領域の専門教育— 第 10 回 CRC のあり方を考える会議 2010 年 10 月. 別府.

2) 小林典子、佐藤聡子、堅田早紀子、中村美波理、齊藤裕子. がん臨床試験における CRC 教育プログラムの開発. 第 2 回日本臨床試験研究会学術集会. 2011 年 2 月. 大阪.

G 知的所有権の取得状況

特許取得	なし
実用新案特許	なし
その他	なし

アンケートのお願い

アンケートにご協力をよろしくお願いいたします。1人1部ご記載の上、ご返信下さい。

1. 職種を教えてください。

CRC → はい・いいえ

↓

※医師・看護師・薬剤師・検査技師・CRA・その他()

2. 所属について(いずれかを選んで○を付けてください)

CRCの方 → 医療機関・SMO・その他()

CRC以外の方 → 医療機関・製薬企業・その他()

3. CRCの方のみ、経験年数について(正確にお答えください)

年 月 (CRC認定資格の有無 : 無・有
→)

4. 抗がん剤の臨床試験の経験 なし・あり

5. 4の問いに「あり」と答えた方

抗がん剤の経験プロトコル数(臨床試験も含む) 件

抗がん剤以外の臨床試験の経験はありますか? なし・あり

6. 5の問いに「あり」と答えた方

抗がん剤と抗がん剤以外のプロトコルと比べて、どのような感想をお持ちですか。

()

7. 本セミナーに参加するきっかけ (該当するものに1つ○)

1.講師 2.講義内容 3.タイトル 4.がん臨床試験 5.参加費無料 6.なんとなく

7.その他()

8. 本セミナーは日ごろの業務に役に立つことを期待できますか?

はい・いいえ

9. 本セミナーに期待することはなんですか?

()

10. 本セミナーの各講義に対する質問やぜひ盛り込んでほしい内容をご記載ください。

皆様のご参考となるセミナーとするためにもぜひご記載ください。

	講義名	コメント
1	がん臨床試験の今を知る ～CRC への期待～	
2	プロトコールを深く読んでみる ～統計解析を中心に考える～	
3	安全性の評価の最新 ～CTCAE v4.0～	
4	有効性の評価の最新 ～画像診断と RECIST v1.1～	
5	チーム医療を考える	
6	CRC からみる がん臨床試験の実際	

11. ICR-Web についてお尋ねします

知らない ・ 知っている

12. 10.で「知っている」と答えた方(該当するものに○)

1.会員登録している 2.コンテンツを利用したことがある 3.コメディカルコンテンツをみた

13. 11.で「コメディカルコンテンツをみた」と答えた方(該当するものに○)

1.第 1 回のセミナーをみた 2.第 2 回のセミナーをみた 3.第 1 回のセミナーの資料をダウンロード

4.第 2 回のセミナーの資料をダウンロードした 5.のぞいてみただけ

14. そのほか、ご質問がございましたらご自由にご記載ください。

()

ご協力ありがとうございました。本セミナーの参考にさせていただきます。

アンケートのお願い

アンケート 1～10 にご協力をよろしくお願いいたします。セミナー終了後にご提出ください。

1. 所属及び職種について(いずれかを選んで○を付けてください)

・ 所属 : 医療機関所属 ・ SMO 所属 ・ CRO ・ 製薬会社 ・ その他()

・ 医療機関の方のみ : がん専門病院ですか? はい ・ いいえ

③ 職種 : CRC ・ 事務局 ・ CRA ・ DM ・ その他()

2. <<CRC のみ>>CRC 経験年数、認定の有無について教えてください(正確にお答えください)

年 月 日 (CRC 認定資格の有無: 無 ・ 有 → 日本臨床薬理学会 ・ SoCRA ・ JASMO)

3. 抗がん剤の臨床試験の経験 なし ・ あり

4. 職種を教えてください 看護師 ・ 薬剤師 ・ 検査技師 ・ その他()

5. 各講義の内容は、理解できましたでしょうか? 該当する番号に○をお付け下さい。

理解度を 5 段階で示すとどのくらい理解できましたか(理解度が高い場合「5」とする)

その他ご意見をお聞かせ下さい

	1	2	3	4	5	
がん臨床試験の今を知る ～CRC への期待～						
プロトコルを深く読んでみる～統計解析を中心に考える～						
安全性の評価の最新 ～CTCAE v4.0～						
有効性の評価の最新 ～画像診断と RECIST v1.1～						
チーム医療を考える						
CRC からみるがん臨床試験の実際						

6. 本セミナーは何でお知りになりましたか? ()

7. 本セミナーは、がん臨床試験を行う CRC 研修プログラムとして適切な内容でしたか? 該当する番号に○をお付け下さい。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

とても思わない

どちらともいえない

とてもそう思う

8. 本セミナーが e-learning で利用できるようになった場合は、教育ツールとして利用できると思いますか?

はい ・ いいえ → いいえとご回答された方は理由をお聞かせください。

(

)

9. <<CRC のみ>>貴施設(社)で、現在 CRC の教育はどのように行われていますか。
また教育において、困っている事などあればお聞かせ下さい。

10. ご感想や今後、聞いてみたい内容がありましたらお聞かせください。

11. <<CRC のみ>>今後の情報共有について

今後、CRC のネットワーク作りのためにメーリングリストの作成を検討します。ただし、管理上の問題もありますので、現段階では検討中です。開通の際にはメールでお知らせいたします。

登録希望の方は、メールアドレスをご記載ください。(利用目的はセミナーのお知らせ、その他情報提供、質問、困った時の Q&A などです)

e-mail: _____ @ _____

ご協力ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

第3回 CRC のためのがん臨床試験セミナー
事前アンケート結果

1. 参加者背景

参加者 128 名 (CRC 98 名、CRC 以外 30 名)

	CRC (n=98)	CRC 以外 (n=30)
背景	1 年未満 <u>15%</u> 1 年以上 (1 年～12 年) <u>85%</u>	診療情報管理士、DM、医師、看護師、薬剤師、検査技師、研究員、製薬会社 (QC、CRA)、企業 (統計解析)、医局秘書
抗がん剤臨床試験の経験	あり <u>79%</u> なし <u>20%</u> (該当なし 1%)	あり <u>60%</u> なし <u>33%</u> (該当なし 7%)
抗がん剤と抗がん剤以外の臨床試験の経験	あり <u>68%</u> なし <u>10%</u> (該当なし 22%)	あり <u>47%</u> なし <u>13%</u> (該当なし 40%)
抗がん剤と抗がん剤以外の臨床試験経験ありと回答した方…がん臨床試験は難しいかどうか	はい <u>70%</u> いいえ <u>30%</u>	はい <u>71%</u> いいえ <u>29%</u>
がん臨床試験を難しいと思う理由	安全性の評価 <u>26%</u> 治験薬取り扱い <u>13%</u> 試験の背景 <u>9%</u> 試験デザイン <u>9%</u> IC <u>9%</u> 補償 <u>4%</u> スケジュール管理 <u>4%</u> 重篤な有害事象 <u>4%</u> 症例報告書 <u>4%</u> 有効性の評価 <u>2%</u> 解析対象群の理解 <u>2%</u> 治験用検査 <u>2%</u> 被験者の選択 <u>2%</u> 被験者対応 <u>2%</u> その他 <u>9%</u>	安全性の評価 <u>10%</u> 試験の背景 <u>10%</u> スケジュール管理 <u>20%</u> 有効性の評価 <u>10%</u> 被験者の選択 <u>10%</u> その他 <u>40%</u>
参加のきっかけ	講義内容 <u>57%</u> がん臨床試験への興味 <u>32%</u> その他 <u>11%</u>	講義内容 <u>47%</u> がん臨床試験への興味 <u>33%</u> その他 <u>20%</u>

2. 講義「がん臨床試験の今を知る～CRC への期待～」への要望など

(ア) がん臨床試験の現状について

1. 特にグローバル試験で、不要とも思えるデータまで集めなければならないことが多くなっているような気がしますが、それに対して何か意見できる方法はないのでしょうか？ 治験全般でそういう細かいデータをとる方向に向かっているのでしょうか。動向とその背景について知りたい。
2. 現在のがん臨床試験の全体の傾向、流れ
3. 国際共同治験への課題など
4. 現在の業界全体の動向、日本での実施状況や傾向など、
5. 海外の試験について、また、日本との比較や現状について
6. がん臨床試験を行っている全国の施設数や傾向を知りたい
7. 分子標的について
8. 今最もトピックなこと
9. がん臨床試験の現状と今後の見通し
10. 専門性の高い内容が知りたい
11. 現在の試験数、ターゲットとなっている薬剤、今後の展望
12. がん臨床試験のオーバービュー並びに最近の傾向
13. グローバル試験について、日本での現状
14. 被験者より海外の情報質問多数。最新情報入手方法は？タイムラグ減の為の厚労省政策？現場CRCにできること？欧米諸国とのCRC資格の違い
15. 分子標的治療が導入されるようになってきているが、それによる試験の組み立てがどのように変化してきているか知りたいです。
16. がん臨床試験の動向、傾向
17. どのような試験が多いのか、最近の動向が知りたい
18. CRC が関与する臨床試験の実際、今後の方向性
19. がん領域における治験と臨床試験の動向について。臨床試験で行っていること。最新の治験情報など。
20. スピードと効率が求められる現在の治験の流れの中で、実際にどのような課題があるのか具体的に把握したい。
21. 医師、患者、製薬企業など、様々な立場からみた臨床試験の実際が知りたい

(イ) CRC に期待することについて

1. 医師ががん臨床試験担当に求める知識、技能
2. がん患者と接する上でメンタルフォローの知識、技能
3. 医師の視点から見てがん臨床試験に関わる CRC はどの程度の知識を持つべきか、CRC に何を期待するのか知りたい
4. 求められている CRC には、どのレベルまでの技術、知識が必要なのか、癌腫の専門性をもった CRC となるべきなのか。
5. CRC として必要な知識
6. CRC の患者対応における配慮すべき点を教示ください

7. 現在の CRC 支援に対する要望、また、研究者からみた CRC に展開を期待する支援内容について
 8. 具体的に CRC へどのような期待をしているか知りたい(支援業務の内容、範囲など)
 9. がん臨床試験において、CRC に対しての期待が、がん臨床試験以外の臨床試験に対する期待と異なっているのか、異なっているならどのようなことか。
 10. バックグラウンド(看護師、薬剤師など)が異なる CRC にどのようなことまで期待されているか、反対に行ってよい部分はどこまでなのか。
 11. 「期待」という意味で、現在の CRC 業務と違う点について知りたい
 12. CRC の必要性をさらに深く理解し、今後の業務に役立てたいです
 13. がん臨床試験で現在、CRC に期待されていることのほか、今後期待されるであろう展望をききたい
 14. CRC に求められる知識や姿勢。
 15. CRC が最低限どこまで理解しておくべきか
 16. CRC の役割、必要なスキル
 17. 癌臨床試験で CRC に求められていること
 18. がん臨床試験において、CRC に望まれていること
 19. CRC に期待されていること
 20. 医師が CRC に何を期待するのか
 21. CRC が臨床試験へ関わること
 22. CRC が「がん臨床試験」に関わる場合の基礎知識について
 23. 企業側から求められていることを知り、自分の仕事を振り返る良い機会としたい
 24. CRC に期待されていることを、企業側からの意見を聞きたい
 25. CRC に一番求めることは何か？知識？調整力？
 26. 医師が CRC に何を望んでいるのか
 27. 抽象的な話やありきたりな話ではなく、CRC にどんな仕事を期待しているのか、具体的な仕事例をあげて教えていただきたいです。
 28. CRC への期待として医師は何を望んでいるのか、どこまで関わってきてほしいのかを知りたい。癌臨床試験の何を勉強するべきか知りたい。
 29. CRC に求めることは？
 30. がん臨床試験において期待され求められる CRC とはどのような CRC なのか知りたい。
 31. CRC として今後取り組まなければならないことをおしえていただきたい。
 32. CRC の認定は必要か。
 33. 医師の立場より今後の CRC へ期待すること。
 34. どう動くべきなのか
 35. CRC 業務はどこまでか。SMO と院内 CRC の業務の違いについて
 36. がん臨床試験を実施する上で CRC に一番求められるもの、期待されていることについて
 37. CRC として基礎知識をどのレベルまで必要とされているか。
 38. Dr.への対応だけでなく、被験者の期待にどう返答し対応すべきであるのか
 39. がん治験をサポートする上で求められていること、グローバル治験増加に伴い今後注意すべき点
- (ウ) その他